

総合計画市民検討協議会 第2回報告書（都市基盤・産業部会）

記録者	山田 敦	場所	市役所北庁舎第 1～3 会議室	
開催日時・場所	平成24年12月4日（土） 午前9時30分 ～ 正午			
出席者 (12名)	明石 光子	足立 和代	市川 純一	大室 元
	齊藤 秀雄	森田 敏雄	山田 和夫	山田 政明
	後藤 直樹	須田 茂也	山田 敦	吉岡 知洋
傍聴者	0名（ ）			

1. 基本構想の見直しについて

見直しの視点	<p>●「第1回市民検討協議会」を受けて議論の上での留意事項 テーマの検討に入る前に次のことを留意した上で議論した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを決める際には、配られている資料をよく熟読し、検討した上で意見する。 2 市政世論調査（市民アンケートの結果）において、市民の関心が高いテーマ（医療の充実、犯罪の減少、緑化）については、さらに議論が必要。 3 他部会で出た意見なども議事録で確認できるので、資料をよく見てから臨むようにする。 <p>●「第1回市民検討協議会のまとめの資料」を確認した上での追加意見 現テーマ、前回の議論及び他部会の意見でもあり、強調していくべき点について議論した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都市基盤・産業部会のハード面の充実において記載されているが、歴史の風土を感じさせるまちなみについても強調すべき。 2 市民アンケートの結果からも「みどりが豊か」の項目について関心が集まっていることから、みどりの充実についても強調していくべき。 <p>●まちづくりの主な課題に関する意見及び土地利用に関する意見 個性的で魅力的な都市景観の創造と土地利用に関する意見については、土地利用と景観が一体的であり切り離して議論することが難しいこともあるため、同時に議論することとした。</p> <p>【テーマ1 個性的で魅力的な都市景観の創造と土地利用に関する意見】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農地としての土地利用と景観について <ol style="list-style-type: none"> ア 農地は、「府中らしい景観」としても重要で、地域のコミュニティー形成にも活用できる可能性があり、農地と市街地との共存が求められる。 イ 農地を残すことは、流通の地産地消、緑化による環境保全、災害時の避難空地等として役立つ。 ウ 開発行為及び後継者不足等により、農地が減ってきているが、農地を減らさない施策を考えるべき。 2 道路等の土地利用と景観について <ol style="list-style-type: none"> ア さくら通りの桜については、歩道が狭いため、沿道の建築物の建替え等により幹枝が剪定され、樹形が不整形。 イ 樹木の植栽、保存等の自然環境にやさしい土地利用を推進すべき。
---------------	---

	<p>3 府中の魅力的な景観とその創出方法について</p> <p>ア 府中には、歴史的なものを感じさせる建物等がいくつかあり、それらに倣って、市役所等でも歴史を感じさせるような建物にしてはどうか。</p> <p>イ 京都では、京都らしい歴史的風土保全のため、規制もかけているが、歴史的保全に役立つものについては、補助金を出す仕組みがあり、府中でもそのような仕組みを検討してはどうか。</p> <p>ウ 府中の東西に走る崖線は、自然緑地として魅力的。</p> <p><u>エ 歴史・みどり・店舗や住宅とが調和したまちづくりを行うべきである。</u></p> <p>4 災害に強いまちについて</p> <p>現計画では、災害に強いライフラインとなっているが、ライフラインだけではなく、取組み方法等を記載すべき。</p> <p>【テーマ2 地域の高度情報化の推進】</p> <p>1 IT技術を使える人向け、使えない人向けに合わせた情報発信を行うべき。</p> <p>2 後継者不足等による農地の減少対策として、農業の体験等について、情報発信してはどうか。</p>
--	--

●は例示です。この他のタイトルもあれば追加してください。

<p>事務局への連絡事項</p>	<p>・グループ討議を効率よく進めるため、部会ごとの最終報告書（形式、項目立て、提案方法）をイメージできるもの（前回の報告結果）を示していただきたい。</p>
-------------------------	---